

# 知的障害特別支援学校高等部における 自己理解および進路選択への意欲の向上を意図した進路学習の展開 ー進路学習過程への本人参画を促す現場実習先評価シートの試行ー

北岡 大輔<sup>1)</sup> 滝元 あゆみ<sup>2)</sup> 小畑 伸五<sup>2)</sup>

1)和歌山大学教育学部 2)和歌山大学教育学部附属特別支援学校

## 1. 問題と目的

特別支援学校（知的障害）高等部に在籍する生徒の多くは，卒業後は就職（福祉的就労を含む）をする．そのため，高等部ではこれまで，職業科や作業学習，産業現場等における実習（以下，現場実習）等を通して，職業生活に必要なスキルやマナーを身につけられるようにし，職場へのスムーズな移行を意図した指導が大切にされてきている（才藤・古井，2019）．

しかし，その進路検討の過程においては，生徒が受動的になってしまったり，自らのことを過大・過小評価してしまったりすることにより，自らの願いや適性に応じた進路選択が難しい場合が少なくない．そのため，本人が自己への理解を深め，自らの思いを意識化できるように支援し，本人が進路検討過程に主体的に参画することを促す進路学習を検討していくことが求められている（北岡，2024）．

そこで本研究では，生徒の主体的な進路検討を促すための，本人参画を重視した進路学習について検討するため，現場実習の事後学習において，生徒本人による現場実習先評価（業務内容および人的，物的環境の満足度，不安な点等）を施行した．本稿では，その施行から見えた成果と課題について，概要を報告する．

## 事業所について

しょうご 職場について考えましょう	かんが 氏名	実習先	かんそう 感想
<div>項目</div> <div>ひょうか 評価</div>			
<div>しょうご 1. 仕事内容</div> <div>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</div> <div>気になる 満足</div>			
<div>しょうご ふんいき 2. 職場の雰囲気</div> <div>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</div> <div>気になる 満足</div>			
<div>しょうご ひと 3. 職場の人</div> <div>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</div> <div>気になる 満足</div>			
<div>しょうご かんきょう 4. 職場の環境</div> <div>おと 音・におい・あか など</div> <div>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</div> <div>気になる 満足</div>			
<div>しょうご 5. 通勤距離・時間</div> <div>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</div> <div>気になる 満足</div>			
【よかった・気に入ったと思えること】		【しんどかったこと・気になること】	
【不安なこと】			

図 1 生徒本人による現場実習先評価シート

## 2. 方法

これまで、生徒の職業上の適性や能力、頑張ったことなどについて、教師や保護者、事業所からの評価や本人による自己評価を実施し、職業選択に向けての自己理解を促す取組を継続的に行ってきた（北岡・滝元・中筋，2024）。しかし、今回は、生徒の主体的な進路検討を促すという観点から、実習先である事業所を、生徒が自分自身に照らして評価をするという取組を試行した。

<対象> X 特別支援学校高等部 1～3 年生 27 名

<時期> 2024 年 6 月（前期現場実習後）及び 11 月（後期現場実習後）

<評価用シート> 図 1 の通り

## 3. 結果と考察

施行した結果、次のような成果と課題が見られた。

### <成果>

- ・生徒が事業所をどのような視点で見ているのか、進路選択に向けて生徒が重視している事柄は何かなどについて教師が気付くきっかけとなり、本人の思いに沿った進路指導に生かすことができた。
- ・生徒が、職場の環境面や働いている人にも目を向けて、具体的に進路を考えることにつながった。
- ・事業所を評価することは、自分の特性や希望することに改めて目を向ける機会となり、自己理解をより深めることにつながった。
- ・仕事内容が、本当に自分に向いているものかどうか（好むものかどうかだけではなく、継続できそうか等も含めて）を考えるきっかけとなっていた。
- ・実習先を評価した経験があることによって、現場実習報告会で他の生徒が発表している実習先についても、それらの事業所が自分に合っていそうかどうか、という視点をもって、主体的に聞こうとすることにつながった。
- ・数直線で評価できるようにしたことで、言葉で伝えることが苦手な生徒であっても、自分の思いを表現しやすかった。

### <課題>

- ・生徒によっては、「悪いことは書かない方がいいのでは」と、自分の率直な評価を書きにくそうにしている様子が見られた。
- ・生徒によっては、数直線で表現することに戸惑う様子が見られた。（割合の理解の困難さから自分の気持ちを適切に表現できない、自分の心情の強さを数字で表現することへのイメージが持ちにくいなど）

事業所への評価を実施したことにより、自分の進路に向けてどのような視点で事業所を見ればよいのか、何を検討の材料にすればよいのかなどについて、生徒が理解を深めるこ

とにつながった。また、現場実習報告会での他の生徒の報告を、他者の経験談として聞くだけではなく「自分にとってはどうか」と自分事として聞くなど、進路に対する生徒の主体性を高めることにも影響した。さらには、事業所の仕事内容や職場環境を評価することは、すなわち、自分の特性や希望と照らし合わせて考えることとなるため、自己理解を深めるという意味でも、有意義な取組となったと考えられる。

一方で、生徒によっては数直線での表現に難しさが生じる場合もあったことから、2件法や4件法を用いるなど選択肢の数の調整や、あるいは対話の中で聞き取ったことを教師が書き込んでいくといった手続きの工夫など、生徒に応じて改善を図ることが求められる。また、「悪いことは書いてはいけない」という意識から、率直な評価ができなくなってしまう生徒も見られたことから、評価の内容は事業所には伝えない、ということを明記するなど、安心して記入できるようにする工夫を考える必要がある。

#### 引用文献

北岡大輔（2024）特別支援学校（知的障害）高等部におけるキャリア教育の到達点と今後の展望．育療, 75, 14-30.

北岡大輔・滝元あゆみ・中筋千晶（2024）知的障害特別支援学校高等部における自己理解および進路選択への意欲の向上を意図した進路学習の展開．和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書, 2023, 53-57.

才藤大和・古井克憲（2019）知的障害特別支援学校高等部における作業学習・現場実習・進路指導に関する実態調査．和歌山大学教育学部紀要．教育科学, 69, 13-20.